

IV-2. 登録研究会の活動

ビジネス創造センターに登録している研究組織の平成 19 年度における活動状況は以下のとおりです（ABC 順）。

ビジネス・プラン研究会

1. 代表幹事名：松尾 睦（院アントレプレナーシップ専攻・准教授）
2. 目的・内容：
ビジネス・アイデアからビジネス・プランを策定・展開することに関する理論的および実践的な手法の開発を行います。

地方政府レベルにおける多文化主義的地域政策研究会

1. 代表幹事名：相内俊一（院アントレプレナーシップ専攻・教授）
2. 目的・内容：
北海道の市町村における多文化主義的地域政策推進のための諸条件, 政策領域の可能性などについて, 比較文化的観点から研究し, 地方政府の政策形成に寄与することを目的とします。

地方政治システム研究会

1. 代表幹事名：相内俊一（院アントレプレナーシップ専攻・教授）
2. 目的・内容：
地方政府のマネジメントを、財政バランス・政策選択の優先順位・住民満足度・発展戦略などの観点から研究します。
3. 平成 19 年度活動実績：毎月 1 回 3 時間、札幌サテライトにおいて研究会を開催。

地域環境問題研究会

1. 代表幹事名：八木宏樹（一般教育等・教授）、事務局：山本 充（院アントレプレナーシップ専攻・准教授）
2. 目的・内容：
地域社会が抱える環境問題を自然科学・社会科学の両面から分析し、その解決に向けた処方箋や情報を提供することを目的とします。

CS(カスタマー・サティスファクション)研究会

1. 代表幹事名：伊藤 一（商学科・教授）

2. 目的・内容：

目的：企業の顧客満足経営を実現することを目的とする研究。

内容：研究対象はサービス産業を中心に調査を展開。これまでの実績としてはホテル業を対象に実施。平成16年は飲食業のCS調査を実施。

土曜研究会

1. 代表幹事名：若井克俊（経済学科・准教授）・藤生源子（経済学科・准教授）

2. 目的・内容：

経済研究会（土曜研究会）は、昭和33年（1958年）に発足し、当学内で最も長期的に継続実施されている経済学・社会科学の研究会です。

この研究会の目的は当学における研究活動に対する啓蒙であり、当学内外の研究者の研究報告により、経済学の最新の研究テーマに触れる機会を当学研究者に提供するとともに、テーマを巡る議論を通じて研究会参加者の研究活動を促進することです。

3. 平成19年度活動実績：

開催日	報告者（所属）	報告タイトル
6.12(火)	橘木俊詔（同志社大学）	格差社会の行方
9. 4(火)	赤井伸郎（大阪大学）	Soft budgets and local borrowing regulation in a dynamic model with decentralized leadership
9.28(金)	小田正雄（島根県立大学・立命館大学）	Welfare Enhancing Direct Investment
10.19(金)	阿部修人（一橋大学）	価格改定頻度及び特売と消費者物価指数の動向－大規模POSデータに基づく考察－
10.26(金)	小椋正立（法政大学）	家族介護者の負担感の分析
11. 9(金)	荒川章義（九州大学）	ノイマンとゲーム理論の起源
11.15(木)	敦賀貴之（日本銀行金融研究所）	Do Sticky Prices Need to Be Replaced with Sticky Information?
11.16(金)	村澤康友（大阪府立大学）	経済学の成績に対する数学学習の効果
12. 7(金)	渡部和孝（慶応大学）	How Do Relationship Lenders Price Loans to Small Firms? “Hold-Up” Costs, Transparency, and Private and Public Security
12.14(金)	石川竜一郎（筑波大学）	A Simulation Study of Learning a Structure: Mike’s Bike Commuting
1.25(金)	尾山大輔（一橋大学）	Trade and Entrepreneurship with Heterogeneous Workers
1.25(金)	安藤至大（日本大学）	Reputation Management and Seniority Systems in Firms
2. 1(金)	原千秋（京都大学）	Aggregation of state-dependent utilities
2.15(金)	工藤教孝（北海道大学）	Strategic Price Posting

2. 22(金)	関口格 (京都大学)	Optimal Sharing Rules in Repeated Partnerships
3. 14(金)	山田宏 (広島大学)	Some Empirical Evidence on Business Cycle Transmission from the US to Japan

4. 平成19年度研究成果（刊行物，HPなど）：

経済研究会活動履歴

<http://www.otaru-uc.ac.jp/dept/econ/workshop.html>

遠隔教育研究会

1. 奥田和重（院アントレプレナーシップ専攻・教授）

2. 目的・内容：

遠隔教育の経済性評価に関する実証研究を行う。自治体の教育委員会や小・中学校と連携して遠隔教育システムを構築し，その経済性を評価するとともに，教育心理学の視点からシステムの有効性を評価する。

北海道ヘルスケア・マネジメント研究会

1. 代表幹事名：李 濟民（院アントレプレナーシップ専攻・教授）

2. 目的・内容：

「医療経営」に関する研究，調査，セミナーを実施

北東アジア・サハリン研究会

1. 代表幹事名：李 濟民（院アントレプレナーシップ専攻・教授）

2. 目的・内容：

経済活性化が望まれている北海道と大規模石油・ガス開発プロジェクトを実現しつつあるサハリンとの関係を中心軸にとり，それを取り囲む北東アジア地域の様々な問題群を検討します。

法制研究会

1. 代表幹事名：玉井利幸（企業法学科・准教授） 齋藤由起（企業法学科・准教授）

2. 目的・内容：

広く法律学一般に関する学術の進歩を図るため、これに必要な調査研究発表を行うとともに、教官相互の研鑽と大学院教育の向上に寄与すること。

内容：小樽商科大学商学部企業法学科所属の教官および院生の研究発表。

1998年度以降は、大学院科目「法学総合研究A」「法学総合研究B」として、大学院生の教育の場ともなっています。

3. 平成19年度活動実績：7回開催。

月日 (回(通算))	報告者	報告題目
5.16(水) (1(96))	韓 文選 (小樽商科大学大学院商学研究科修士課程)	大規模小売業者による優越的地位の濫用について
6.20(水) (2(97))	遠山純弘 (小樽商科大学准教授)	不能と解除—債務法改正に向けて—
7.18(水) (3(98))	才原 慶道 (小樽商科大学准教授)	(判例評釈) 内部分裂と不正競争防止法 2 条 1 項 1 号の請求権者—東京地判平 16.3.11 平 13(ワ)21187 と東京高判平 17.3.16 平 16(ネ)2000 を素材に—
10.31(水) (4(99))	河野 憲一郎 (小樽商科大学准教授)	ドイツにおける調停手続への関心の高まりと日本における民事調停手続—帰朝報告を兼ねて
11.21(水) (5(100))	佐藤寿志 (小樽商科大学大学院修士課程)	法人税法 34 条に規定する「不相当に高額な部分の金額」について—判例研究 名古屋地判 平成 6 年 6 月 15 日—
11.21(水) (5(100))	井上文人 (小樽商科大学大学院修士課程)	会社法における少数派株主の締め出し
12.12(水) (6(101))	松岡清華 (小樽商科大学大学院修士課程)	独占禁止法 25 条の存在意義について
12.12(水) (6(101))	韓 文選 (小樽商科大学大学院修士課程)	大規模小売業者による優越的地位の濫用
1.23(水) (7(102))	南 侑太 (小樽商科大学大学院修士課程)	租税回避行為の否認—私法上の法律構成による否認論の民法理論からの検討—
1.23(水) (7(102))	八木澤 礼子 (小樽商科大学大学院修士課程)	過払年金に対する返還請求の可否

4. 平成19年度研究成果（刊行物、HPなど）：

平成19年度に開催された法制研究会の各報告題目などが、

<http://www.otaru-uc.ac.jp/dept/law/housei/housei07.html> で公開されています。

ICT 研究会

1. 代表幹事名：奥田和重（院アントレプレナーシップ専攻・教授）

2. 目的・内容：

「北海道（地域）あるいは企業の情報化に関わる課題の解決を図りながら I C T（情報通信技術：Information-Communication Technology）による社会・経済的価値の創造を考える」ことを目的としています。本研究会の活動は、具体的には以下の課題を中心に議論を行い解決の可能性を検討することです。

1. 北海道（地域）の情報インフラの整備と地域経済の活性化
2. 企業とマーケット（顧客），企業と企業，企業内における情報化
3. 情報教育と人材育成

会計研究会

1. 代表幹事名：坂柳 明（商学科・准教授）

2. 目的・内容：

「世界に開かれた会計」を目指し、国際会計基準の歴史的変遷について、知識を深めることを目的としています。

3. 平成19年度活動実績：

(1)：7. 7（土）：Camfferman and Zeff（2007）, Camfferman, Kees and Stephen A. Zeff, “Financial Reporting and Global Capital Markets,” Oxford：Oxford University Press, 2007. の第1章を輪読及び討論

報告担当者：松本康一郎先生（北星学園大学）

(2)：7.27（金）：上記 Camfferman and Zeff（2007）の第2～3章を輪読及び討論

報告担当者（2章）：松本康一郎先生（北星学園大学）

報告担当者（3章）：渡辺和夫先生（小樽商科大学）

(3)：9.17（月）：上記 Camfferman and Zeff（2007）の第4～5章を輪読及び討論

報告担当者（4章）：檜山純先生（北星学園大学（非常勤））

報告担当者（5章）：原晴生先生（札幌学院大学）

(3)：10.16（火）：上記 Camfferman and Zeff（2007）の第5～6章を輪読及び討論

報告担当者（5章）：原晴生先生（札幌学院大学）

報告担当者（6章）：今村聡先生（北海学園大学）

(4)：10.27（土）：上記 Camfferman and Zeff（2007）の第7～8章を輪読及び討論

報告担当者（7章）：篠本智之先生（小樽商科大学）

報告担当者（8章）：片山郁雄先生（函館大学）

(5)：11.18（日）：上記 Camfferman and Zeff（2007）の第9章を輪読及び討論

報告担当者（2章）：松本康一郎先生（北星学園大学）

（6）：その他、

5月19日（土）に、石坂信一郎先生（札幌学院大学）より、「わが国の公会計制度の充実と課題」との報告を、今村聡先生（北海学園大学）より、「チューリヒ大学での研修について」との報告を頂きました。

12月23日（日）に、大沼宏先生（東京理科大学）より、「非適格組織再編に臨む経営者の経済的動機」との報告を、渡辺和夫先生（小樽商科大学）より、「『財務会計変遷論』要旨」との報告を頂きました。

経営研究会

1. 代表幹事名：高田聡（商学科・教授）

2. 目的・内容：

経営学に関する理論及び実証研究を中心に研究報告会を開催。商学科経営学講座のスタッフが中心となる活動であるが、より広く報告・参加者を募り、知識の幅広い交流も目指しています。

3. 平成19年度活動実績：3回開催

日時	報告者	論題
5.24（木） 午後2時半～	玉井健一	中小製造業の競争戦略
9.18（火） 午後3時～	松尾 睦	医療組織における学習プロセス：淀川キリスト教病院と医療生協さいたまの事例
11. 5（月） 午前10時半～	近藤公彦	組織能力としてのCRM（マーケティング研究会との共催）

*会場は 研究棟B会議室

国際取引契約研究会

1. 代表幹事名：中村秀雄（院アントレプレナーシップ専攻・教授）

2. 目的・内容：

- ① 輸出入取引、国際取引のノウハウ
- ② 国際的事業をどう構築すればよいか
- ③ 国際取引契約書（特に英文契約書）検討のコツを勉強します

3. 平成19年度活動実績：

実施回数 8回/合計参加人数 計47人 実施場所はすべて札幌

マーケティング研究会

1. 代表幹事名：プラート・カロラス（商学科・准教授）

2. 目的・内容：

本研究会の目的はマーケティング分野における最新研究に関する情報交換及び研究者交流の場を設けることです。本研究会におきましては、マーケティング関連の学内及び学外研究者による最新研究の報告、議論を行います。

3. 平成19年度活動実績：

第1回目のマーケティング研究会は経営研究会・マーケティング合同研究会として行われました。

日時 11.5（月）午前10：30-12：00

場所 小樽商科大学研究棟B会議室

報告者 近藤 公彦 先生

論題 「組織能力としてのCRM」

小樽運河観光船プロジェクト研究会

1. 代表幹事名：海老名 誠（ビジネス創造センター長・教授）

2. 目的・内容：

小樽運河は小樽のもっとも重要な観光資源であると同時に、小樽市民にとっての宝とも言うべき特別な資産です。この運河を小樽の産官学で守り、同運河の更なる活性化を目指し、同運河に運河船（Canal Boat）を運航するプロジェクトを立ち上げる為、共同研究を行います。

特色：小樽運河の利用・活性化を巡っては、過去数度に亘り企画が取り沙汰され、その度に頓挫して来ました。その理由は、企画主が本州資本であったり、商業主義利潤追求を目的としたからです。本プロジェクトでは、小樽資本による、小樽のための、小樽の総力戦（オール小樽）で研究する点に特色があります。

3. 平成19年度活動実績：

昨年度に引き続き、オール小樽体制確立のために共同研究メンバーが関係機関、小樽市および関係団体・関係者等（小樽市経済部、同港湾部、小樽観光協会等）を訪問し、プロジェクトについての説明、ヒヤリングを行いました。

また、広くプロジェクトの意義と概要を周知するため、説明用DVD、ビデオテープを作成しました。

4. 平成19年度研究成果（刊行物、HPなど）：

『小樽運河景観再発見：オール小樽による Canal Boat プロジェクト』（DVD、ビデオテープ）

進化経済学ワークショップ

1. 代表幹事名：江頭 進（経済学科・准教授）
2. 目的・内容：
経済・社会の複雑な発展過程を「進化」をキーワードとして、さまざまな角度から分析します。その特に複製子-相互作用子の概念を基礎としながら、経済・社会を知識生態系として捉え、その発達と崩壊過程を論じることを目的としています。
3. 平成19年度活動実績：
 5. 16（土）：出版打ち合わせ（TV会議）
 5. 23（土）：出版打ち合わせ（TV会議）
 9. 21（金）：研究会合（会場：鹿児島国際大学）
 3. 23（日）：研究会合（会場：鹿児島国際大学）
4. 平成19年度研究成果（刊行物、HPなど）：
 9. 21（金）：第12回進化経済学会サマースクール報告（鹿児島国際大学）
 3. 24（土）：第12回進化経済学会年次大会セッション企画（鹿児島国際大学）

商学研究会

1. 代表幹事名：渡辺和夫（商学科・教授）
2. 目的・内容：
商学科所属教官全員がメンバー。商学科教官および学外の研究者による研究発表ならびに意見交換等を行う。各教官の研究内容について、これを専門分野にとらわれることなく、多角的な視点から議論することを特色とします。
3. 平成19年度活動実績：

開催日	報告者	報告
5. 12（土）	前田 陽	戦前におけるトヨタ自動車の原価管理
5. 12（土）	大岩利依子	無形資産及び知的財産の課税に関する考察－アメリカ合衆国の税制を中心に
2. 4（月）	Dr. MOhamedAslam （マラヤ大学経済 行政学部上級講師）	East Asian Economic Integration and the Role of Japan

SBM研究会 <スモール・ビジネス・マーケティング研究会>

1. 代表幹事名：下川 哲央（大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻・教授／ビジネス創造センター・フェロー／北海道産学官研究フォーラム「経営情報部会・部会長」）

2. 目的・内容：

主として札幌圏の中堅・中小企業経営者・幹部社員等を対象とし、企業経営の発展に不可欠でありながら最大の弱点にもなっているマーケティング能力の向上、マーケティング・マインドの醸成に寄与する理論やスキルの追究・普及等を図ることを目的とするセミナー、ワークショップ等の活動を定期的に行います。

3. 平成19年度活動実績：

開催日付	講師	テーマ（区分／開催場所）
6. 26(火)	講師1: 下川哲央氏（小樽商科大学） 講師2: 大家 昇氏（日本産業心理 コンサルティング協会インスト ラクター）	顧客価値の創造のための戦略的経営セミナー ー最短最速のコミュニケーションノウハ ウとはー
7. 31(火)	話題提供 & モデレーター：下川 哲央氏（小樽商科大学）	「納豆ダイエット事件の教訓ーマーケティ ングの切り口」(SBMワークショップ(第1回))
8. 23(木)	佐藤瑞嘉氏（株CTC 代表取締役）	「あなたの会社はもっとよくなる」ーインサ イドアウト・ビジネスコーチングとはー(ビ ジネス・コーチングセミナー)
9. 26(水)	話題提供：山内浩二氏（山内ビニ ール加工(株)営業部次長） モデレーター：下川哲央氏（小樽 商科大学）	「山内ビニール加工(株)のケースについて (PART1)」(SBM ワークショップ（第2回））
11. 9(金)	話題提供：山内浩二氏（山内ビニ ール加工(株)営業部次長） モデレーター：下川哲央氏（小樽 商科大学）	「山内ビニール加工(株)のケースについて (PART2)」(SBM ワークショップ（第3回））
11. 20(火)	石森秀三氏（北海道大学観光学高 等研究センター長） 加納民雄氏（北海道開発局 建設 部道路計画課 開発専門官） 戸川達雄氏（北海道旅客鉄道(株) 鉄道事業本部営業部課長） 橋本徹哉氏（北海道 CMC(株) 営業 推進部 推進担当）	「観光立国北海道に向けた観光創造とは」 (観光イノベーション戦略セミナー (SBM/ 経営情報部会共催))
2. 18(月)	講師：上野正彦氏（日本銀行 札 幌支店長） コメンテーター：下川哲央（小樽 商科大学）	～2008 年 北海道の景気動向と今後の行方 ～(北海道経済ビジネス戦略セミナー (SBM/ 経営情報部会共催))

3.12(水)	話題提供：須藤修氏（㈲オフィス ヴォイジュ 代表取締役社長） モデレーター：下川 哲央氏（小 樽商科大学）	「スープカレーの店 ㈲オフィスヴォイ ジュのケース」(SBM ワークショップ(第4回))
---------	--	---

（備考）SBM研究会は代表幹事（下川哲央）が平成20年3月末をもって本学を退職したことから、CBC登録研究会としての活動報告は平成19年度分をもって終了する。なお、SBM研究会自体は平成20年度より、SBM＝Strategic Business Manegement（戦略経営）研究会と変更の上、引き続き下川哲央を代表幹事として活動を継続中である。